

研究参加施設で診療を受けられる皆様へ

研究参加施設では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	成人期アトピー性皮膚炎患者の臨床経過に関する疫学調査			
② 実施予定期間	実施許可日 から 2029年3月31日			
③ 対象患者	対象期間中に各施設を受診した18歳以上のアトピー性皮膚炎の患者さん			
④ 対象期間	2024年4月1日から 2026年3月31日			
⑤ 研究機関の名称	別添参照			
⑥ 対象診療科	皮膚科			
⑦ 研究責任者	氏名	関口 明子	所属	皮膚科
⑧ 使用する試料・情報等	診療録中の以下の既存情報を収集します。 ● アトピー性皮膚炎の発症時期 ● アトピー性皮膚炎の寛解の有無とその時期 ● アトピー性皮膚炎が寛解した患者さんが再発・再燃した時期 ● アトピー性皮膚炎以外のアトピー性疾患の有無 ● アトピー性疾患の家族歴の有無 ● 初診時の血液検査の総IgE値とTARC値（TARC値はアトピー性皮膚炎の病勢の指標となる検査項目です） （注：寛解は、医学的治療を必要とせず日常生活を問題なく送れる状態が1年以上続いたことを意味しています。）			
⑨ 研究の概要	アトピー性皮膚炎は、生まれつきの皮膚バリア機能の低下や免疫異常などを背景として、多くは乳幼児期から小児期にかけて発症し、気管支喘息や花粉症などのアトピー素因を有する疾患です。本邦における小児の有症率は10.5%前後であり、16歳までには患者さんの90%前後が自然寛解するとされています。一方で、本邦の17歳～20歳代の有症率は8～10%であり、16歳以降に再び有症率の上昇を示す傾向があります。この有症率再上昇の理由としては、A. 17歳以降に新たに発症した患者さん、B. いったん寛解したが17歳以降に再発・再燃した患者さんの存在を考える必要があります。しかしながら、成人のアトピー性皮膚炎の患者さんにおける臨床経過において、AとBの割合を詳細に検討した報告は存在しません。さらに、C. 成人の患者さんのうち小児期からアトピー性皮膚炎を持ち越している難治性の患者さんの割合を検討した報告もないのが現状です。そこで、本研究では、当院を含む全国の複数の大学病院と共同で、本邦の成人アトピー性皮膚炎の患者さんにおける上記A, B, Cの各患者さ			

	んの割合を明らかにすることを目的としています。各施設を受診された18歳以上のアトピー性皮膚炎の患者さんの臨床情報（詳細は⑧に記載）を個人が特定できないように情報を加工して記載した調査票を各施設から山口大学医学部附属病院に集約し、山口大学医学部附属病院において結果をまとめて解析します。			
⑩ 実施許可	実施許可日		2026 年 9 月 18 日	
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	研究グループに帰属します。			
⑮ 研究の資金源	加齢皮膚医学研究会の研究費			
⑯ 利益相反	ありません			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	群馬大学大学院医学系研究科 皮膚科学 担当者：関口 明子			
	電話	027-220-8284	FAX	027-220-8285

別添

研究組織

研究代表者：

下村 裕 山口大学大学院医学系研究科皮膚科学講座

研究参加施設と研究責任者

山口大学医学部附属病院 下村 裕

岩手医科大学附属病院 天野 博雄

群馬大学医学部附属病院 関口 明子

藤田医科大学病院 杉浦 一充

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 西田 絵美

和歌山県立医科大学附属病院 神人 正寿

愛知医科大学病院 渡邊 大輔

浜松医科大学医学部附属病院 本田 哲也

金沢大学附属病院 松下 貴史

大阪大学医学部附属病院 外村 香子